

【社会】

悔しさ「今も変わらず」 小1女児殺害4年で父

2009年11月20日 08時57分

広島市で小学1年木下あいりちゃん = 当時(7) = が殺害された事件から22日で4年。父建一さん(42)が20日までに共同通信の取材に応じ「悔しさや切なさは変わらない。事件をふと思い出すと今でも悲しく、つらくなる」と胸中を語った。

同年代の子どもたちを見かけるたび「5年生か。あいりもあれくらいの背丈になって、大人っぽくなっていたのかな」との思いが込み上げる。

少林寺拳法の教室に喜んで通っていたあいりちゃんだが、正式な入会願書を提出する日に事件が発生。現在は小学3年の弟(8)が7級に進み、練習に励む。「技のレベルはあいりを超えたかもしれない。本来ならきょうだい一緒にやっていたのと思うと...」と無念さをにじませる。

ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(37)に対する10月の最高裁判決は、広島高裁への審理差し戻しだった。「死刑の可能性が低くなったのではないか。次で終わると、もう後がない」と不安を口にした。2006年に始まった裁判も3年半。「ここまで長引いたのは、極刑を望み続けた自分にも責任があるのでは」と悩むが、「検察側がもし無期懲役を求刑していれば、一審で終わってしまっていたはず」と思い直した。

(共同)



あいりちゃんの遺影を手に心境を語る父親の木下建一さん = 10日、広島県海田町